

前期は中国人留学生 2 人に、後期は YMCA の約 20 人の学習者に、日本語を教え 1 年間を通していろいろなことを学びました。

前期に私が学んだことは主に 2 つ、「雰囲気づくり」と「暗記ではない学び」の大切さでした。明るい雰囲気で授業を行うことで質問しやすい環境になり、学習者が発言しやすくなることによって日本語を楽しいと感じてもらえることができる、と考えました。また、ただ教師が言った言葉や、大事だと言ったところを暗記するだけでなく、アクティブ・ラーニングのように脳をしっかり動かして考えることによって、本当の学びに繋がると考えました。

今回、後期の YMCA での 3 回の実習を終えて、私は上記 2 つの大切さを改めて実感しました。

まずは雰囲気づくりですが、DVD の動画を見てみると、私が緊張して声が小さくなったりと不安げな顔をすると、そのマイナスな空気が学習者にも移ってしまい、雰囲気が少し重くなっていました。このことにより学習者が発言しにくくなり、授業が教案のように進まなくなったり、教師から見て学習者が理解しているかが分からなくなったりなど、授業をしていく上でたくさんの悪影響を作り出していることが分かりました。

次に、暗記ではない授業ですが、これの大切さを実感したのは 2 回目の会話の授業の時でした。この時の授業ではまず、会話文と、その中に入っている今回の文型をインプットし、次にペアになってその文型を使って文章を作ってもらい発表してもらいアウトプット活動を行いました。このアウトプット活動を行っているときに、ペアで一生懸命文章を考えたり覚えたりしたことによって、しっかりと頭の中に入っていくのだろうと感じました。またアウトプットの間を設けたことによって、教師も学習者の理解度や間違いに気づくことができ、教師にとっても大切なことだと思いました。

しかし、授業をすることがいかに大変なのか、またその準備の大変さも、私は今回の実習を通して学びました。

まず準備の大変さですが、私が最初に苦戦したのは教案の作り方です。最初の授業は時間配分が未知の世界で、活動内容を決めてもこれはどれくらいの時間がかかるのかが分からず、教案を作るまでにたくさんの時間がかかってしまいました。その他にも色々なことを書きすぎて非常に見にくくなり、授業中に教案を凝視する時間が増えてしまうことや、しっかりと活動内容が書かれていない教案を作ってしまうことなど、教案作りはとても難しかったです。ですが、回数を重ねるうちに時間配分のコツも徐々に掴み、自分なりに授業中に教案を見やすくするには空間をもっと開けることや、活動内容もシンプルかつ細かく記入することなどの工夫で、わかりやすく授業中にも見やすい教案が作れるようになったのではないかと思います。

次に教材準備は、色々と試行錯誤し、工夫しました。今回の授業の活動は模造紙を使うことが多く、張ったり剥がしたりする事がとても多かったです。そのためこの作業に時間を取られてしまい、授業中に学習者に背を向ける時間が長くなってしまいました。

そこで、授業の前から模造紙を半分にして見えないように張ったり、誰かに協力してもらうなどして時間を減らしました。1番工夫したのは、模造紙に、のちにはがす紙を最初からピンで留めておき取りやすくすることで、「黒板にくっつかない」と焦ることなく模造紙を使うことができ、時間の短縮にもつなげることができました。私自身、緊張症で手が震えるなど、模造紙を黒板に張りにくかったので、この教材工夫を実際にやってみて成功したときはとても嬉しかったです。

私は緊張しがち、ということで、前期の実習ではたくさんの課題がありました。「笑いきないこと」「学習者の目をしっかり見ること」「早口にならないこと」などの課題です。これらは、私にとって一番気を付けなければならない点であり、一番しいと感じていることです。

前期の実習を終えてから、日ごろから相手の目を見ることなどは意識をして生活していました。後期の実習1回目、授業の動画を見て、前よりは自分でも意識をしていたので、アイコンタクトを前期のときよりも行っていました。と同時に、教案を見る時間や、模造紙を見る時間が多くなっていることに気が付きました。「またか・・・」と思うことばかりで、心が折れそうでした。やはりここが自分の一番の弱点であり、克服するために頑張らなければならないところだなと、改めて実感しました。そこで私は、先ほど述べた教案の書き方や、教材を工夫して作るなど、いろいろなことを行いました。学習者の目を見ることを意識するように、自分の教案に赤字で「目を見て聞く！」とところどころに記入するなど、意識づけを徹底しました。そうすることによって、緊張はしていても授業をスムーズに進めることができ、学習者の目を見て授業することができました。DVDの動画を見ても、前期の中国人留学生への実習の頃よりもよくなっているなと思いました。

日本語教育の実習は難しいことばかりでした。「どうしたらもっとしっかり学習者に伝わるのだろう」「答え合わせだけの時間を、どうしたら暗い雰囲気にならずに行うことができるだろう」等と、考えることがたくさんありました。ですが、この難しさを体験して、次の授業に向けて試行錯誤し新しいやり方を考える喜び、そして次の授業で実際にやってみて成功したときや、伝えたいことを学習者にうまく伝えられたとき、学習者が楽しそうに授業の活動を行っているときの嬉しさも学びました。何か難しいことがあっても、新しいやり方を探すことは大切だということを実感しました。

もし今後、私が日本語を教える立場になったら、この思いを持ちながら、暗記ではない学びができるように、授業や活動をいろいろと工夫し、楽しく明るい雰囲気で授業をしていきたいです。ですが、この授業を行っていくためには、授業の仕方もずっと一緒ではなく、変えていかなければならないと思います。例えば、学習者が変われば、その人たちにあった活動に変え、また授業を行ってみて、もっといい活動ややり方はないかと考え、現状に満足せず、より良い授業をつくりだしていきたいです。

そして私の強みである明るさと笑顔で、明るく楽しい授業を作ります。学習者から日本語が好き！と言ってもらえるような授業ができる教師になりたいです。